

平成28年度 自己評価・自己点検

1. 教育理念・教育目標

《教育理念》

一人ひとりの幼児が、夫々の発達課題に則して、自己の能力を十分に生かし、価値のある人生を送ることができるように、神を敬い、他の人々と親しみ合い、身近な自然に対する豊かな感性を磨くよう、指導と援助を与えて、幼児の健全な園生活を図る

《教育目標》

明るく逞しく、心豊かで、調和のとれた円満な人間性の基礎を育む

園の教育理念・教育方針の理解	○園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している	83→78→88%
	○カトリック園としての教育方針に共感している	96→96→100%
	○園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている	75→59→67%
	○園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	79→78→83%
	○教育目標が現代社会の要請や必要に応える内容となるよう努力している	75→74→67%
幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を理解し、生かしている	79→74→71%
	○幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている	75→52→58%
	○幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる	83→78→83%

2. 年間目標

年少「園生活に慣れ、友だちと触れ合って遊ぶことの楽しさを味わう」

年中「さまざまな活動に意欲的に取り組み自己発揮する」

年長「自分で考え、自ら正しいことを選択して行動する」

3. 学級経営のためのクラス別自己点検・自己評価

評 価 項 目	達成率
① 子どものことについて常に教師間で話し合い、クラス・学年の枠を超えて情報を共有し、クラスの出来事や保護者からの様々な要望、意見については園長や主任、学年主任等に報告、連絡、相談をしているか。	88→89→88%
② 子どもの健康で安全な生活を保障するために、施設・設備等の安全点検・衛生管理を定期的また随時行い取り組んでいるか。	71→74→71%
③ 一人ひとりが神に愛されている意識を育て、家庭の事情・国籍・能力などでの差別を植えつけないような配慮がなされているか。	92→93→92%
④ 一人ひとりの子どもが、友だちとふれあい、お互いの良さを認め、安定感を持って人間関係が育つような保育がなされているか。	71→81→83%
⑤ 子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにし、一人ひとりの子どもの内面をより深く理解するように努めているか。	79→93→88%
⑥ 絵本や物語などに親しませ、想像力やことばに対する感覚を大切に育てているか。	96→89→92%
⑦ 教師が各々の得意分野の能力を生かし、その育成につとめ、教師間の良さを生かし合って信頼と協力が築かれているか。	79→81→79%
⑧ 明るく爽やかに挨拶をこころがけ、正しい日本語・ていねいなことばで語りかけ、相手の話も耳を傾け、最後までしっかりと聞いているか。	79→81→75%
⑨ 研修会には自己課題を持って、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめ、保育に生かせるような成果を出しているか。	63→52→63%
⑩ 保育の専門知識や技能のほかに、趣味や読書・ボランティア活動等、社会的な環境にも目を向け、人間性の幅を広げる努力をしているか。	58→56→63%

4. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年少児>

《重点目標》

子どもたちの心の育ちを期待して教師間で話し合い、内面理解に努める。

評価項目	達成率
① 自分の保育と計画の評価・反省を行っている	75→70→75%
② 進んで戸外で様々な活動に親しみ、運動する喜びを持てるようにしている	63→74→83%
③ 一人ひとりが安定感を持ち、友だちと協力したり、思いあったり、助けあって生活できるようにしている	79→85→83%
④ 生活や遊びのなかでルールを守り、楽しく活動できるようにしている	75→93→83%
⑤ 周囲の環境に対して、精神的に関わり、感じたり、考えたりする取り組みを行っている	67→56→75%
⑥ 絵本や物語等を使って、想像力やことばに対する感覚を育てている	92→93→88%
⑦ 一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	79→93→83%
⑧ 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培ううえでもモデルとなっている	88→78→79%
⑨ 幼児の年齢に応じたわかりやすく聞きとりやすい語りかけ方をしている	83→78→71%

○取り組み状況

・一人ひとりを細やかに見ていった1年であったと思う。初めての集団生活という子どもがほとんどであったが、しっかりとまとめあげてきている。

・寒さに負けず戸外でのびのびと遊べるように、かけっこやマラソン、かくれんぼ等の運動に取り組む、教師も積極的に参加しながら、繰り返し遊んできた結果、体力づくりや子どもたち同士のふれあいの機会となり、友だち関係やことばの育ちも感じられる場面もあった。

・音楽会の行事に向け、子どもたちの育ちを考え、一人ひとりの動きに合わせて練習に取り組めるよ

う教師間で話し合い、計画を立てながら行ってきた。保育を行う教師の役割や責任の重要性を感じたとともに、考えたり工夫したりしながら次の計画に生かし、子どもたちの成長を促して育ちを支えていく努力の必要であると感じた。

- ・教師自ら、遊びの中心となることで、周囲の子どもにも興味・関心を与えることができ「やってみよう」と思えるきっかけになっていたのではないか。

- ・子どもの成長とともに、指導の仕方も変えていかなければならないが、教師間だけではなく、保護者とも話し合い対応ができていた。

- ・戸外で鬼ごっこをする人数が増えており、ルールのある遊びに興味が出てき始めているのを、うまく教師が誘い、友だち同士の関わりができてきていると思う。子どもたち一人ひとりのことを、教師間で話し合い、次年度へとつなげようとしている。

- ・子どものやる気を引き出せるように、カードやシールを使って、達成したことが目で見てわかるようにし、達成できた喜びを子どもとともに教師も分かち合い、次のステップへ進めるようにしていた。

- ・戸外遊びを十分に取り入れ、子どもたちのエネルギーをうまく発散させていた。一人ひとりの子どもについてしっかり理解できているが、困っていることなどを全職員に伝え、一緒に考える機会を持つことでよりよい指導ができるのではないかと思った。

- ・思いやりについてクラスで何度か話し合った。それから、困っている友だちを見つけると進んで助けに行ったり、声をかけたりする姿を見かけるようになった。

- ・一人遊びが中心の子どもがいたため、子どもが喜ぶようなクラス活動を保護者と協力して考え、実行した。クラス活動を楽しみに登園するようになり、友だちと関わる機会を増やすことができた。友だちと関わる楽しさも味わえたと思う。

- ・音楽会の練習に向けて、自分たちの手で楽器を作り演奏したり、歌ったりする楽しさを味わった。

- ・増やし鬼や氷鬼など、ルールのある遊びをしていくなかで、子どもどうしでルールを確認したり、統一したりして遊びを展開していった。

5. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年中児>

《重点目標》

自分からやってみたいと思う気持ちを大切に、自己発揮を十分にできるように配慮する

評価項目	達成度（A～D）
① 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている	75→93→83%
② 進んで戸外で様々な活動に親しみ、運動する喜びを持てるようにしている	75→70→75%
③ 生活や遊びのなかで、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている	79→78→88%
④ 生活や遊びの中でルールを守り、楽しく活動できるようにしている	83→93→83%
⑤ 表現活動を通して、工夫したり、考えたり、幼児なりの創造性を発揮できるように努力している	75→93→88%
⑥ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	96→93→92%
⑦ 幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい	100→96→83%
⑧ 幼児の話をよく聞いたり、ことばにならない思いやりやサインを受け止めるようにしている	83→78→79%
⑨ 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	79→85→88%
⑩ “一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考えながらかかわっている	79→85→92%

○取り組み状況

- ・音楽会では少ない人数でどのように演奏することができるか工夫されていた。
- ・最高学年に進級する喜びや期待感が持てるよう、日々の生活やことばがけが行われていた。
- ・進級当初は一人で遊んでいた子どもも、今では友だち進んで楽しそうに遊んでおり、成長を感じた。ことばにも表情にも自信が表れており、頼もしく思った。
- ・室内の製作物は、いつも創造性にあふれていた。きっと楽しく製作したんだろうと思う作品ばかりだった。
- ・遊びが長いスパンで計画されており、子どもたちも安心感をもって過ごせていた。人数が少ないことで、遊びや人間関係が固まってしまうまいよう、合同保育をしたり、担任を交替したりと工夫をこらしていた。

・友だちとのかかわり方について、個人差が出てきているので、その子がどうしたいのか、困っていることはないのかななどをよく観察するようにした。気になったことに対しては教師間で話し合ったり、直接子どもに尋ねたりして、子ども自身に寄り添うようにした。

・製作物を中心として、そこからあらたな活動を作り出していけるよう環境構成を心がけてきた。

・一人ひとりが自分のやりたい活動を自分から見つけられるようになりつつある。室内遊びの好きな子どもたちも多いので、時間をうまく使えるように、他の活動との時間配分を工夫した。戸外遊びにも興味をもってほしかったので、簡単なルールを作り、教師が積極的に遊びに加わるようにして遊びを広げていき、クラスの大半で楽しめるようになってきたと思う。

・2学期に引き続き、2クラス合同で活動をする機会を多くとったため、お互いに刺激しあい、想像力を膨らませながら活動できた。

・大人数で一つのを創りあげる活動も取り入れ、大人数でも自己発揮できる力を身につけていった。

・2学期までの様々な活動を通し、自分が好きな遊び、やってみたい活動を見つけ出すことができたようで、3学期はその活動や遊びを集中し、自分たちで展開させながら楽しめているようだった。

・造形遊びとして粘土を使った遊びを多く取り入れ、一連の流れの中で形を作る喜びや、素材の感触、年長児にプレゼントしたいという意欲を掻き立て、楽しく活動を行っていた。

・卒園式の練習の後、年少児の椅子運びの手伝いを進んで行ったり、戸外で年少児にやさしく接したり、ゆずったりする姿が見られ、次年度は年長になるという自覚の育ちが見られている。

・1年間の保育のつながりが、目に見えてわかる年中組の生活であったと思われる。かなり個性も目立つようになってくる年齢であるが、教師がそばで寄り添いながら、集団としての意識も高まっているので、次年度の更なる成長が期待できそうだ。

6. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年長児>

《重点目標》

自分で考えようとする力の育ちを認め、達成感を味わえるように配慮する

評価項目	達成度（A～D）
① 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている	83→74→75%
② 障害のある幼児も共に生活する保育環境を用意している	83→93→96%
③ 自分の保育と計画の評価・反省を行っている	79→81→83%
④ 教育課程をふまえて、内容・方法を設定している	83→85→83%
⑤ 生活や遊びの中で、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている	83→93→88%
⑥ 周囲の環境に対して、積極的に関わり、感じたり、考えたりする取り組みを行っている	75→93→79%
⑦ 生活や遊びの中で、ことばでやりとりしたり、ものを知ったり、考えたりすることなどに配慮して指導している	88→89→100%
⑧ 絵本や物語等を使って、想像力やことばに対する感覚を育てている	96→78→100%
⑨ 幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している	81→89→83%
⑩ 神の配慮や恵みを伝え、感謝する心を育てようとしている	83→93→92%
⑪ 教育方法を研究し、他の教職員と協力して幼児の学びを促進しようとしている	81→74→79%

○取り組み状況

・それぞれの園生活に加え、集団としての挑戦やがんばりで大きな育ちの見えた1年であった。様々な関わりのなかで、自分以外のことでも真剣に考えたり、支えていったりという姿が見えたのはとてもよかった。

・なわとびで繰り返し遊び、一斉に活動する時間を設け、課題のクリアに向けて友だちと一緒に努力しあう姿が見られた。全員、なわとびが上達し、友だちの良さを認めたり、褒めたり、競い合ったりしながら楽しそうに取り組んでいた。活動中になわとびを行っていたことで、他学年への影響も大きく、なわとびをやってみる年少児、年中児が増え、全学年に良い影響を与えていた。

・なわとび活動を通して、課題に向かって自分で目標や練習方法を考えようとする力が育ち、達成感も味わうことができたと思う。

・朝の読み聞かせ（朗読）は想像力を膨らませたり、集中力を高めたりできる活動になっていたと思う。

・戸外で体を動かす活動に積極的に取り組む姿が多くみられる。

・年少児や年中児が困っていると、そばで声をかけ、自らできる助けをしようとする姿が多かった。年長児としての自覚が見られ、年中児もあこがれていた。

・子ども自身が考えて、友だちが困っていることを手助けしたり、声をかけたりできりうようになってきている。どこまで手を貸したらよいのか、難しいときもあるが、周りの様子を見ながら上手にできるようになっている子が多い。

・様々な行事において、自分たちで役割を決めたり、練習を行ったりして主体的に活動することができた。また、なわとびは毎日の繰り返しによりどんどん上達し、体力もついて、欠席者も少なかった。物語の読み聞かせを続けることで、想像力が豊かになり、聞く力も身についたと思う。

・3学期も行事がたくさんあったが、教師の促しにより子どもたちは進んで取り組むことができていた。

・外遊びや預かり保育時にも卒園式の歌をうたったり、ことばを言ったりしており、自信をもって行事参加していることが分かった。

・進級する喜びと同時に園とお別れする寂しさにも共感し、寄り添いながら最後の園生活をたのしめるようにしていた。また小学校へ期待感をもって進めるようなことばかけをしていた。

○今後の課題

<年少児>

- ・一人遊び主体だったのが、一緒に遊ぶようになり、ルールのある遊びを取り入れていくようになったことで、友だちの輪が広がり、自分たちでルールを決める姿も見られるようになったが、遊び方をめぐってのトラブルが増えてきた。自分たちで話し合い、遊びを展開していけるようにしたい。
- ・困っている友だちがいたら、自ら積極的に声をかけられるようにし、またトラブルになっても仲直りをしたら許してあげられる思いやりの心をもっと育てていきたい。
- ・もっと一人ひとりに寄り添った保育をしたいと思った。
- ・困っていることがあると、園内だけで解決したいが、それが難しそうだと判断したら保護者にも相談すべきだと思った。
- ・友だちと関わって楽しめるクラス活動をもっと行いたい。レパトリーを増やしたい。
- ・担任のみに挨拶をする子どもが何人かいたため、教師全員に挨拶できるようにもっと声掛けすべきであった。
- ・安全面からも生活習慣の確立からも、常に教師の目が必要だが、教師が教室に不在の時間があつた。バスや送迎の組み合わせを考えたり、他学年の教師に頼んだり、全職員で見守るようにしたい。
- ・集団生活に慣れ、友だちとの関わり合いを楽しめるようになってきているが、力の加減や友だちへのことばのかけ方などがわからずに、いやな思いをさせてしまったり、逆に自分が辛い思いをすることがある。相手の気持ちを考えることができ、行動できるようになったら良いと思う。
- ・学年に4名の教師がいて、それぞれの教師が見た子どもの姿のとらえ方や感じ方があるので、保育の合間に意見を出し合ったり、育ちを共有する話し合いは今後も必要である。
- ・集団生活が初めての子どものも多く、集団としてのまとまりはゆっくりしていたと思う。しかし、先生が4人いたことで、広い視野と角度で子どもの育ちに寄り添えたのではないだろうか。しかし、教師が不在の時間もあつたようなので、全職員で見守っていける園内での体制づくりが必要だと思う。

<年中児>

- ・1年を通して製作活動をしており、とても楽しそうだった。年中の部屋の前を通るときに、他学年の子どもたちが興味をもって見ていたため、教師同士で相談して他学年の子どもに披露する機会を作ればよかったと思った。
- ・全体での活動で「年少に合わせる」か「年長を優先させる」という場面が多く、いつも1歩引いてくれていた印象だったので「年中はこうしたい」という意見も時にはアピールできる機会があればと思う。
- ・相手の気持ちを考えて行動できるようになっては来ているが、自分の思いを伝える事に戸惑いを見せたり、逆に強く主張しすぎたりするために、トラブルを起こすことがあつたので、自分の思いを伝えるときはどうすればよいのかを伝えていくことが大切だと思う。
- ・体の使い方が苦手な子どもも多いので、遊びの中で手足・体全体を使えるように工夫していく。

・体を動かす活動に興味を持ち始め、体力的な持続力も出てきていると思われるので、今後さらに積極的に取り組む活動を取り入れていってほしいと思う。

・製作活動は自由に材料を組み合わせてイメージを表現することができるようになってきているので、自由時間などに取り組めるといいかなと思う。

・子どもたちの遊びの中から、活動内容を考えたり変更したりしてきた。また、日々の活動も子どもたちの意見を聞き、決めてきたので、子どもたち自身が責任をもって最後までやり抜こうとする気持ちが育った。使える材料や道具も十分用意できたので、選択の幅も広がり、個性豊かな作品を作ることができ、その後の遊びにもつなげることができていた。各々の「やりたい」という気持ちを受け止めてきたが、興味のある遊びが決まってきて、それ以外は自由遊びでも行うようすがあまり見られなかった、

・たくさんの友だちと関わり、相手の気持ちに気づきながら遊びを進められるようになってほしい。

・1年間の指導計画で共通していたことは造形遊びであり、やってみたという気持ちを高め、創り出す喜びが感じられるような計画を組み立てていた。今後も年中児だからこそ時間をかけて育めるような活動内容を計画して実践していくことが必要であると思う。

・年間を通して、造形活動にみんなで取り組んでいる姿が印象的であった。しかし、個別の活動が主体であったように思えるので、次学年では集団での力を育てるような計画を立てて実践していけると良いと思う。

<年長児>

・戸外遊び以外で、あまり他学年と関わるができなかったため、教師同士で話し合い、誕生会などの機会を使って楽しく交流すればよかったと思った。

・年間を通して行事に追われることが多く、保育内容がややもすると偏りがちになるので、常に意識して様々な活動を取り入れる必要性を改めて感じた。小学校や保育所など異校種の先生方との交流は、自分自身の視野が広がるので、積極的に取り組んでほしい。

・なわとびや音楽会の練習など、一生懸命に活動に取り組んでいる姿が見られ、責任感をもって一つ一つ行動できるようになってきている。ただ子どもによっては周りのスピードにあわせることができないので、どのようにすれば少しでも周りに合わせていけるのかが課題だと思う。

・なわとびの練習では、全員で課題クリアに向けてがんばる内容の保育を組み立てており、みんなで一斉に取り組むことで、楽しく体を動かし、達成した喜びも味わうことができていた。今後も、子どもたちの自主性を育て、自信をつけ、たくましく育っていけるような人格を育てていくことが必要であると思う。

・個人、集団ともに、大きく成長の見られた1年であった。心身のバランスも良く育っているなので、小学校での成長も期待したい。